

1 ニーチェ年譜

- 1844年 プロイセン・レッケンに誕生
- 1869年(24) バーゼル大学古典文献学の教授
- 1879年(34) 大学職を辞職、以後南スイス(サン・モリッツ、シルス・マリア)、北イタリア(ジェノヴァ、ヴェネチア、トリノ)、南フランス(ニース)などに移り住む。
- 1882年(37) 「喜ばしき知恵」第1版
- 1887年(42) 「喜ばしき知恵」第2版
- 1889年(44) イタリア・トリノで発狂
- 1900年(55) 死去

2 表題

・ Die fröhliche Wissenschaft

日本語訳では「華やぐ智慧」(氷上)「悦ばしき知識」(信太)「喜ばしき知恵」(村井)などの訳がある。

「プリンツ・フォーゲルフライの歌」の中の詩「北風ミストラルに寄せて ある舞踏歌」„An den Mistral Ein Tanzlied“に次のようにある。

Tanzen wir in tausend Weisen,
Frei- sei unsre Kunst geheißen,
fröhlich-unsre Wissenschaft!

「メリー・クリスマス」は„fröhliche Weihnachten“fröhlicheは英語の merry に当たる。

・ la gaya scienza

第2版でニーチェは副題としてフランス語の la gaya scienza を付け加えた。

12世紀の「自由恋愛の作法」を意味するものであり、宮廷詩人(トルヴァードール)、吟遊詩人、恋愛詩人(ミンネジガー)の愛の技芸が„la gaya scienza“であった。

3 構成

序文（第2版）

「戯れ、企み、意趣返し」

第一書

第二書

第三書

第四書——聖なる一月

第五書——われら恐れを知らぬ者

プリンツ・フォーゲルフライの歌

4 プリンツ・フォーゲルフライの歌

Lieder Prnzen Vogelfrei 鳥のように自由な

第2版の時に序文、第五書と共に以前の「メッシーナ牧歌」（1882年）を改作して「プリンツ・フォーゲルフライの歌」として付け加えた。「メッシーナ牧歌」の6作品の中の「プリンツ・フォーゲルフライの歌」は「南国にて」という題に改名された。

この書の全体の気分を伝えるものとして「序文」から。

それにしても、いまにして振り返ると、私は何たるものを潜り抜けてきたことだろう！・青春のさなかにあつて、荒れすさみ、疲労困憊し、何ものも信じることなく、凍てついたこの時節、時ならず訪れた老年期。暴虐なまでの苦悶、そしてその苦悶をも凌駕する暴虐なまでの衿持。苦痛から生じる成果は一種の慰めであるのに、その成果すら受け容れない傲然とした衿持。病いゆえに冴え渡る人間蔑視の眼差しから身を護るための徹底した孤独。

（序文）

この書物の言葉は、氷晶を融かす春風にも似ている。傲慢、動揺、矛盾、そして激変する四月の天候がここにはある。いまだ冬の圏内にありながら、冬を打倒する勝利が予感されるのだ。来たるべき勝利が、いや、かならずや訪れる、ことによるとすでに到来しているかもしれない勝利が…

（ 同 ）

5 読書会の方法

次回 []

範囲 []